

## 神原文庫の一般公開にあたって

香川大学附属図書館長  
前田 肇

香川大学附属図書館では、平成7年図書館の3階に「神原文庫展示・収蔵室」が設けられたことなどを記念して、図書館の一般公開行事を定例化することを始めました。今年の平成18年はその第12回目になります。

当館の宝であります神原文庫は、旧香川大学初代学長 故神原甚造先生が収集された膨大な蔵書類の寄贈を受けて整理・保管してきたものです。

神原文庫の特色は、江戸時代後期から明治初期にかけて、日本が鎖国時代から広く世界に扉を開き、西欧諸国の先進文化を吸収して急速に成長を遂げた時代を如実に示している文献資料です。資料は幅広くあらゆる分野に渡っており、和洋書籍類、創刊号雑誌、錦絵新聞、錦絵版画、地図、さらには日本の中近世社会を窺わせる古文書などが含まれています。

今回の第12回目の一般公開では「江戸知識人の見た世界」と題して、鎖国下にあった江戸時代の地図を中心に展示いたします。神原文庫の中から、77点を選んで展示し、経済学部 稲田道彦教授に解りやすい解説を付けてもらいました。

現在のように飛行機や宇宙船もない時代に、しかも外国との出入りを閉ざされていた鎖国の時代に、日本人がどのようにしてこのような正確な知識を得て、全世界の地図を書き上げたか、ご覧になられた方々は驚愕されると思います。小さな地図から巨大な地図まであります。官製地図や民間人が描いた地図、時代によって異なる地図など比較しながら、300年前の時代に思いをはせてご覧になれば大変興味深いものと思います。今日、日本は領土問題でも周囲の国々ともめています。領土の歴史を考える上でもまた興味深いものです。

香川大学は今この貴重な「神原文庫」を次の時代に残せるように、修復とデジタル化を進めていますし、毎年のように国内外からの展示要請に応じて、資料の貸し出しを行っています。多くの市民の方々が展示品をご覧になられ、我々の先人の偉大さを実感していただき、香川県にもこのような貴重な宝があることに誇りを持っていただければ幸いです。